愛　知　県

2200　地域密着型サービス自己評価票

・　指定認知症対応型共同生活介護
（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）

（よりよい事業所を目指して・・・）

記入年月日	平成　2007 年　8 月　13 日
事業所名	グループホームほほえみ
ユニット名	一丁目
事業所番号	2373400429
記入者名	職名　管理者　氏名　佐藤みち子
連絡先電話番号	0568　65　–　3344

自 己 評 価 票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人をその人らしく暮らせる家」を理念に、入居者一人ひとりが主役の生活を職員はサポートしている。地域の喫茶店に出かけたり、地域老人会と親しく交流している又、地域の方も気軽に来客してもらっている。		運営推進会議を開催し自治会・老人会・市役所・警察署・消防署・保健所などの協力を得てサポートネットに努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	３ユニット合同の申し送り時、カンファレンス、ミーティングなどを通じて管理者と職員全員で話し合い、理解し日々の生活にいかしてるいる。		各フロアー、玄関等に提供してある。面会にこられた家族、友人などにも見やすい場所に貼ってある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	法人として広報誌を発行し各施設に設置している。ボランティア、自治会との連絡の上、月に何度と家族を交えて話しあっている。		運営推進会議に家族や地域の人々に出席していただいており、その都度理念に基づく日々の生活や行事を写真や広報を示しながら理解してもらうよう取り組んでいる。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	推進会議において地元自治会、老人会、等に参加を呼びかけている。庭からの声かけ、あいさつをはじめ部屋の中にもお招きし、お茶を飲んでもらって会話している。		犬の散歩時に立ち寄って下さり利用者と花壇の花の種類など楽しく又株分けしたりしていただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事に招いたり又自治会の行事に参加したりしている。又、自治会費も納めさせていただき自治会員になっている。		自治会主催の歩け歩け大会に参加したり、参加者への休憩場所を提供したりしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の理解やかかわり方、健康法の相談対応ボランティアの研修の受け入れもし地域の老人会の稽古の発表会の場を提供し、お互いに日々の生活をやりがいのある生活とするよう取り組んでいる。近隣の人の施設見学も受け入れている。		イベントの多くを公表、老人クラブ、家族の参加人数を増やす様に心がけている。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	接遇、自己チェック、危険リスクチェックにおいて毎月記入して良い介護が出来るように努力している。いつ外部評価されてもよい様にスタッフが理解し、接遇をし、部屋に昔懐かしい家具や庭づくりを行っている。		ホーム独自の家族アンケートを年一回実施している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書を作成、家族、市、自治会、ゲスト、出席者に配布している又ミーティングにて職員全体で話し合っている。	○	包括センターとの交流を深め、今後多機能な活動を行なっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	犬山市より介護相談員を2〜3ケ月に1回受け入れている。運営現場をみてもらいアドバイスを受けている。又、市職員からも私どものグループホームでぜひ受け入れてほしいとのお言葉をいただいたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を受けている。又、内部研修にて法人職員、ホーム職員で必要時の話し合いの場を持っている。看取りの指針を作成し、その人その人の最後まで本人や家族の意思を尊重する取り組みをしている。	○	今後も相談を受けたらすみやかに関係機関の協力を得て、必要な人には支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	県主催の研修に参加している。フロアー毎のチームでケアーを行い疑問点はその場その場で話し合っている。地域のケアマネージャーと協力して介護放棄され独居でまったく掃除をされていない部屋に居た利用者を受け入れた事があった。		ホーム内での報告・連絡を蜜にして申し送り等へ詳細に記入している。地域の自宅での介護放棄についてはケアマネ等との協力で取り組んでいきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者には十分な説明をしている。理解から納得に至るように話し合っている。		入居の場合は何度も見学していただいている。退去の場合は相手先に情報提供書等もっていってもらっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が常に利用者と話し合っている。利用者自ら事務所に気軽に話しをしに来ていただいている。ミィーティング、朝の申し送りに職員に相談、問題解決に努めている。		一対一で落ち着いた雰囲気作りをして利用者が思いを打ち明けやすい時間を作れるように努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ほほえみだより」を家族に郵送している。健康状態はTELにて話している。買い物などは立替金で処理している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にホーム独自のアンケートを出しその結果や改善点をカンファレンスで話し合っている。玄関に意見書も設置してある。市職員、地域の人々と利用者並びに家族の方々に運営推進会議で同席していただき、意見を述べていただき、運営に反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に自由に意見を出し合い話し合っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成・変更など話し合いのうえ個別グループ内での話し合いで調整をしている。		利用者の状態に応じた職員配置をしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	私ども法人内で一番離職率が低く、職員が利用者と家族という関係性に近い、専門性をもつ介護職員に恵まれ感謝している。		介護報酬が下がる最近でも、可能なかぎり夜勤手当等の給与改善を行い努力してきた。
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修など必要な研修会には出席してもらっている。スーパーバイザーによる内部研修も実施している。		内部の看護師、他部署の主任等より研修を受ける機会を作っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席している。同業者との交流も行っている。他のグループホーム見学会や研修もおこなっている。		他のグループホームより利用者と職員が訪問してくれている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティング後の親睦、食事会などを開催、昼食後職員だけのコーヒータイムなど時間をさいている。		法人内には職員食堂もあり、グループホームから完全に離れる時間ももてるのでもっと活用するよう働きかけていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割分担をして努力や実積を評価している。いつもさりげなくホームに入って行き利用者さんへの声かけはもとより、職員へねぎらいと感謝の言葉かけを行なっている。		参加したいと思う講習会などは極力勤務を合わせて参加しやすい様にしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学と面接をだびたび行い、利用者と職員がまず顔なじみになる機会を作っている。入居までに使用していた家具や衣類、アルバム等を持ってきていただきその方の歴史を理解し不安を無くすよう努力している。		カンファレンス時、生活していくうえでの不安の軽減を計るように又、利用者のニーズにあった介護を話し合っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学と面接をだびたび行い、利用者と職員がまず顔なじみになる機会を作っている。会話からのアセスメントを重視している。利用者と別の部屋でもお話しをうかがい本人の自尊心をキズつけない様又、本当はどのような様子だったか聴く機会をつくり受けとめている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カルテ、フェイスシートを把握して要望収集の上ケアプラン対処、検索上処置を講じている。生活あるいは介護サービスのみならず、連携している。医師との医療サービスや市町村等の手伝きなど法的サービスも受けれるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に事前に面接を行い、職員との顔なじみになる努力をしている。入所前から行事に誘い雰囲気を見ていただいている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごすことをモットーに日常生活では先輩である利用者さまからスタッフはたくさんの事をお教えいただき、できることを　ほめったえ　喜怒哀楽を共にしお互支え合う関係を保っている。		すべて職員がやってしまうのではなく出来ることはやっていただき見守る介護が出来るように努めている。出来たことを共に喜び合うことを常としている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面接時利用者の近況を話し写真をお見せしながらエピソードを伝え、喜怒哀楽を共にしている、又、TELにて体調の良し悪しを報告、共有している。		行事への参加、運営推進会議への出席と家族、利用者、職員が情報を共有している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には自室に誘導し、家族と利用者が周りを気にせず時を過ごせるように努めている。又リビングでも隣席にお誘いし、昔のアルバイト等、皆でその人その人の歴史を理解する努力をしている。		日々の暮らしを話している。ほほえみだよりを送付、近況を家族に伝えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れない努力している。友人、親戚、家族など自由に出入りしていただいている。モーニングコーヒーに誘われて出かけて行く方も多数いる。		同敷地内にデイサービス、有料老人ホームを有する複合施設である為の利点を生かしている。デイでの行事に誘いがかかったり有料老人ホームに入所している馴染みの方と買い物に出かけたりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの利用者が活躍できる場面を見つけ、そこから利用者同士がお互いのことを知ることやかつて得意としてきた事を皆でほめたたえ世話役を引き受けてもらったりして、孤立せず活躍の場をさりげなく提供している。		利用者、職員との良い関係が生まれるようにテーブル席の工夫をしている。食事作り、配膳、洗濯等　日常生活は利用者の方々のお知恵お教えいただきながら行なっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化などで長期間の入院を余儀なくされた場合でも常にコンタクトを取り利用者並びに家族をバックアップしている。退院後の入所等の相談も受けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュケーションを多く持ち本人の意向を聞いている。アルバムの写真を見せていただいてどのような歴史、暮らし方もなさってきたか把握に努めている。精神状態の安定に努力している。		利用者が少しでもその人らしく生活するにはどうしたらいいか考えながら日々接するようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に利用者の生活暦や好きな物、嫌いな物を聞き日々のケアーに生かせないか考慮している。利用者本人の普段の会話の中で出た話しを個人記録に記入するようにしている。昔の写真を話題によく話しをする。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティング時、ケースカンファレンス時に一人一人の出来る事や維持していきたいこと最近の心身状態の変化を話し合って職員全員のケア-に生かしている。		入所された時から、なにも分からない出来ない認知症の方と考がえないで今までの人生、なんでも出来ていた方としてスタート。何が出来なくなったかを見極めて精神面と身体面と総合的に支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスを中心にケースカンファ、ミィーテングを開きアイデアを出し合い本人や家族やメデカルスタッフの意見を考慮して作成している。		利用者の日常生活の中から職員が築いたことをメモファイルに入れるようにしている。それも参考にもしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者を中心に変化に対し敏速に対応し計画をたて直すことにより見直し、ケアプランを作成している。		医療機関は同一法人であり、協力的であり、家族も皆協力的であるので変化に対しすぐ対応ができている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に行動、言動、精神状態の変化を記録し職員全員で情報を共有し日々の介護やケアプランの見直しの参考にしている。		個人記録のページの中にコメント覧を作り、その中に言動などを記録している。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス、ショートステイ、有料老人ホームなどと常に交流を計っている。付帯施設のデイケア室などの使用もしている。		他科受診なども家族の必要に合わせて通院の支援をしている。法人に共用の車イスも利用できる庭園ができるので、それも利用していただきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着の推進会議を中心に民生委員、ボランティアグループ、警察に参加していただき安全、文化、趣味などの交流を行って、利用者を皆で支援している。		保健所、警察署、消防署とも連絡をとり合っていて、いつでも協力していただける関係づくりを行なっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具販売業者とはよく話し合いを持ち、特別な車イスや歩行補助具の購入を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特養待ちで入居される方については、ホームに入居されている間は他の利用者さまと変わらず対応し、特養の入居申し込みをしていただき順番になれば気持ち良く送り出すよう地域包括支援センターと協働している。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人に対して週に1～2回の往診を受けている。変化のあった時は上申して何時でも24時間対応で診ていただいている。家族の希望で他病院（専門医）を受診している利用者もいて通院支援をしている。		なじみの関係が出来ている為に利用者がドクターと世間話しをする時間もある。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人のクリニックに認知症を認定できる医師がいて常に相談指示を仰いでいる。		関係機関のドクターを確保している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師とは24時間の連絡体制を確保。体調の変化等は口頭にて連絡、又、申し送りノートも作成して個々の体調管理につとめている。		バイタルチエックの他、看護師との連絡を密に24時間連携密着して行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	同一法人の入院施設のドクター、ナースからは常に情報提供を受け家族には伝えてある。又、他病院へ入院した時は見舞をしながら訪院し情報や相談に努め病状が安定した時点で受け入れている。		ホームで往診や訪問看護により在宅医療ができるため長期入院は少なく自室で療養できるシステムができている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全家族に看取りの指針を渡してある。ドクター、家族、可能な限り本人も含めて話し合いの場を持っている。看取りの契約も取り交わしている方もある。		看取りの指針、看取りの契約書を家族に提示していて、実際に契約書に署名捺印をいただいている方もある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアープランを作成して医師の指示のもと看護師、職員全体で協力して取り組んでいる。		看取りの介護に関する具体的な支援内容が記されたものを職員全員に配布してある。毎月開くカンファレンスでも話し合っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の健康状態、精神面を書面にて情報を交換する報告書をお渡ししている。		転出先の職員と話し合いの場を持ち継続してやっていただきたい事項を話し合っている。介護サマリーを渡している。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士で話す時は個人名を出さず職員同士で通じる方法をとってる。排尿、排便等の回数等もプライバシーを損なわない気遣いをしている。個人記録の開示をしているが家族のみとの限定もしている。		「ほほえみだより」発行にあたり、契約時に個人、集合、複数の写真の掲載への可否を取っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いつも○○だからという固定観念にとらわれないよう本人の希望を聞くよう心がけている。忙がず利用者の返事を待つようにしている。自己決定できる方は意思表示をしていただき希望に沿っている。		利用者の判断力に合わせてイエス、ノーで答えられる質問の方法にも心掛けている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加を楽しむ方、静かにのんびりしたい方、散歩に出る方、買い物に出かける方、人それぞれに過ごしていただき職員の都合を優先しない。		その人らしい生活はどのようなものなのか利用者、家族、生活暦などから理解するように努めてその日、その日を天候、気温を考慮し希望に沿えるように支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望に沿って理・美容院も利用、おしゃれ心が引き出されるように支援している。季節に応じた服装が出来るように家族にお願いして支援している。職員が化粧療法を学び、生き生き暮らせるよう支援している。		白髪染めなどはホーム内で希望があれば施行している。（白髪染めは家族持参）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり盛り付けたりを一緒に行っている。料理をする作業が困難な利用者には献立の話をしたり、食事を作っている途中のにおいにふれたり関心を持ってもらうように努めている。		一人一人が大きな器から食べられるだけ自由に取っていただいている（職員はある程度の量のみきわめはしている）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は本質的に自由にしていただいている。糖尿病の方にもおやつ等、糖分カロリーを考えつつさりげなく、支援している。		利用者の中には酒、タバコなど自由にしていただいているが、タバコは決められた場所、酒は他人に迷惑をかけないように職員がさりげなく支援している。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけしてトイレ誘導を行い失敗のない様に一人一人の状態を把握している。夜間はオムツ対応の方も昼間はリハビリパンツにはきかえていただいている。		排泄パターンをつかめるよう個人表に排泄時間を書くようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回を目安に曜日は利用者の自由としている。		仲の良い利用者同志が誘い合って入浴を楽しんでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にしている。昼夜逆転にならないように支援している。睡眠パターンを把握、個々に合わせた安眠策をとっている。		布団を干したり、シーツを洗ったり、気持ちの良い環境を整えている。睡眠が取れないからと安易に薬の処方はしてもらってない。
⑶その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じて日常生活の中から役割分担が自然に出来上がっている。他の人のお世話もしてもらったりして生きがいを感じていただくようにしている。詩吟を習う人、お茶を点る人、それぞれの楽しみも継続している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金で会計処理しているが、買い物時は先に予想金額をお渡して自己にて支払いを済ませていただいき、お金を使える喜びを感じてもらっている。		全財産を所有して入居した方に銀行の貸金庫のお話をしたこともあった。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲を散歩したり帰り道に喫茶店でモーニングをしたり、中庭の花壇のお花見などを行なっている。		重度の方も中庭に出ていただき気分転換を計っている。法人共用の庭園が出来上がった時は車イス対応なので大いに利用しようと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者希望のコンサート、詩吟の発表会、又、利用者の中には同級生と一泊旅行にも行なっている。（服薬など職員が、同行して下さる方に説明協力をあおいでいる）		家族が外出に連れ出して下さる時は写真など写して来て下さいと頼み楽しかった事を共有させていただいている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでもかけていただいている。敷地内には郵便ポストもあり『年賀状」「暑中見舞い」など職員と一緒に書いて出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人などよく訪ねていただいている。居室、フロアー好みの場所で面会していただいて長時間になっても居心地良く過ごしてもらっている。又、お茶の接待はもとより、おやつ時にはお菓子などお出ししている。		
⑷ 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない介護に取り組んでいる。県庁等の研修、院内研修にも参加し、全員が理解している。安全面を中心にした介護に努め、危険行動の一歩先を読むよう心がけて介護している。		身体拘束廃止ビデオを法人が所有し回覧できるようになっている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイム、防犯ベルの利用でノーマルな生活に努めている。階段の昇降には必ず職員が付き添って行動、不穏時は職員がさりげなく付き添っている。夜間、赤外線センサーで通過すると音が鳴る装置がついている。		運営推進会議に犬山署の防犯課署員の講義の中に不審者が多発しているとの話があり防犯策として21：00玄関施錠時間を18：00とした方が良いか考えている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアー職員が互いに人数確認をしている。自室に入いっている時も様子を見に行きつつ会話してくるようにしている。音には敏感に反応して、なにかあればすぐ対応できるようにしている。		デジカメでその日その日の服装を写し、もしホームから出て行っても利用者の写真、服装がわかる配慮も今後必要かな？と考えている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分の持ち物は自室で保管していただいている。（針箱、はさみなど）包丁、漂白剤など危険と判断したユニットは流し台の収納庫にカギをかけ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット報告を実施して事故防止、事故報告書にて再事故防止に取り組んでいる。誤薬防止の為3度確認の徹底、5W1Hも電話機のそばに貼ってあり、適格に情報をつたえられるようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルの徹程を行っている。3ユニット合同の朝の申し送り時にも対応の方法を申し送っている。看護師の来るまでの間の初期対応は職員全員が出来ている。消防署の救急救命士の職員より講習も受けている。		救急救命士の講習時「障害のないまま逝ってもらいたい」との講師の言葉が心に残っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の災害対策にもとづき避難誘導等実施訓練もしている。（利用者にはレクも兼ねて、参加していただいている。）消防署員による避難訓練、初期消火の実施訓練指導も受けている。		法人内で協力し合えれるよう消防訓練は一緒に行うよう消防署よりの指導のもと行っている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	法人の医師から検査により、まもなく起るであろう事態について前もって聞かされており、家族も熟知してもらい、リスク対応は職員意識を一致する努力をしている。		
⑸その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に体調変化、異常の発見には心がけている。バイタルチェック、検温は毎朝施行している。職員同士報告・連絡・相談のチームプレイを実行している。異常があれば担当看護師、医師に24時間連携で指示をあおいでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬剤情報をファイルしてある。常に職員は情報確認をしている。服薬時には2人の職員と利用者によって3回確認し合っている。実際に服薬出来たかの確認も注意深く見守っている。服薬によっての症状の変化も常に看護師に報告している。法人内の薬剤師もよく訪問し、服薬異常を見のがさない様努力している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多くとる工夫、便通改善する飲食物の摂取、腸を活発する為の運動を看護師から情報を得て実行している。安易に薬に頼ることのない様にしている。個々の排便チエック表を作成して、排便の回数、形体の確認をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔清拭を実施している。義歯は寝る前に薬剤洗浄をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間がかかっても出来る限り全量摂取に心がけている。利用者の体調に合わせて粥、キザミ食の支援は施行できている。テーブルにはお茶のセットを用意してあり、いつでも飲むことが出来る。摂取量は各個人記録に記入して職員は摂取量の把握が出来ている。法人内の管理栄養士の助言も得ている。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルが作成してあり常に読み返し、予防に力を入れている。職員は出勤後手洗い、うがい、消毒は習慣となっている。面会者にもお願いしている。法人からの情報網も持っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛正管理マニュアルを壁に貼り出して日常的に目にしている。又、実行出来ている。食材の管理は法人の管理栄養士の指導を受けている。食器等は乾燥機を使用している。調理器具のまな板、包丁等は熱湯消毒してから使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からフェンスの仕切りだけの区別となっている為なじみの方や家族の立ち寄りやすい環境となっている。四季の花が常に咲いており、犬の散歩などの方が立ち寄り、話の花が咲くこともしばしばある。玄関はいつもオープンされており入りやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには季節の花が飾られている。（花は購入するより花壇の花を使用する場合が多い）壁には絵画、利用者の手作りの作品などが飾ってあり、落ち付いた空間作りをしている。窓は天気の良い日には開放して自然に親しんでいる。食事作りに参加されない利用者にも野菜を切る音、炊き上がるにおいなど生活感を感じていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ-や、たたみのスペースがある。たたみのスペースでは2～3人が集まり洗濯物をたたんだり、畑の野菜をながめたり、おしゃべりされている。仲の良い利用者同士、ソフアーでおしゃべり姿が多くみられている。また、独りになれるイスも置いてある。		

項　　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用されていた家具を持ち込んでいただき、生活の継続できるように支援している。家族の写真を飾ったり、好きなカレンダーを飾ったり工夫している。電動ベットも家庭的雰囲気が感じられるような工夫がしてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状態を把握して窓を開放したり換気扇により換気に努めている、室温は過度な冷暖房はさけ、外気温と余りひらきのない努力をしている。又、西陽の差し込む部屋のフェンスにつる植物を植えたりして工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手すりが設置されている。居室のベットも高さ調節が出来るものを使用して利用者が楽に移動できるようにしている。又、万が一転倒した場合を踏まえてフロアー床には衝撃をやわらげる緩衝材が入っている。居室の表札など本人に分かりやすくしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示はわかりやすい言葉を使って表示してある。自室と他の人の部屋がわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチ、一人用チェアがたくさん用意されている。花壇の水やり、洗濯物干しなど多機能に利用している。犬の散歩など近所のなじみの方と花談義に花を咲かせる場所でもある。有料老人ホーム、デイなどの利用者とも、一緒に活用する時もある。		

（ ░ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

V．サービスの成果に関する項目		
項　目		取 り 組 み の 成 果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○　①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○　①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

	項　　目	取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○　①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○　①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者にとって何が出来て何が出来なくなったかのみきわめに重点をおいている。
出来なくなったことに関してすべてサポートしてしまうのではなく、どのようにサポートしたら、その人らしく生きていただけるのかを日々職員と話しあっている。
どのようにサポートしたら、「その人がその人らしく」暮らしていただけるのかを日々職員と話し合っている。